

蚕ノ社・三柱鳥居

京都の広隆寺の近くに「木嶋座天照御魂神社」という神社がある。養蚕神社を合祀しているので通称「蚕ノ社」と呼ばれている。この境内にはきれいな清水が湧き出すちょっとした泉（知らなかった：こんな小池にも“元糺の池”という立派な名前がつけられていたんですね！）と小川がありました。ありましたというのは実は私の子供の頃の記憶で夏には冒険心でよくこの池に遊びに来たものです。とても冷たい水で5分も足を浸けておられなかったのを覚えています。でこの湧き水が流れ出して、この神社の正面入り口の道を隔てて南側にあった池に注いでいたようです。現在はこの池は埋め立てられて駐車場と住宅になっていますが子供の小さな目で見ていた池はかなり大きかったように思われます。池の真ん中には木の生えた島があり「この島には毒蛇がうじゃうじゃいるので絶対に池の中には入らないように」とよく言われたものです・現在は“元糺の池”も水源は涸れてしまい、全く水の“み”もありません。話によるとなんでも、この神社のずっと北の方で新丸太町通りの開通工事の頃から枯れ出したとのこと。この工事で水源が絶たれたのでしょうか。

話はこれから本題ですが、この小池のような処に鳥居が建っていたのです。現在はその枯れた池の真ん中に慄然と建っています。実はこの鳥居が奇妙なのです。この鳥居はなんと柱が3本あるのです。ふつう鳥居といえば神社の門のようなもので。柱は2本と相場は決まっています。それが3本となるとはっきり言って理解に苦しみます。湧き出る泉を祀っているのだと思うのですが。見れば見るほど変であります。3本あしでも鳥居なののでしょうか。考えすぎだ、単なる2本では倒れやすいからもう1本補強して3本にしたとってしまえば、夢も希望もありません。それなら4本にすればと切りがありません。そもそもこれを考えた人は単に倒れないように汗水垂らしたのでしょうか。現在では“三柱鳥居・みはしらとりい”と呼んでいます。この場所に“三柱とりい”があることこそ意義深いもののように思われます。なぜ3本なのか、現在ではいろんな諸説が語られていますが答えが多くなればなるほど、その神秘性が増してくるようになると思われます。いろんな説に接しロマンある夢を見ようではありませんか。

阿部会員





「木嶋座天照御魂神社」と書かれた立派な石碑です



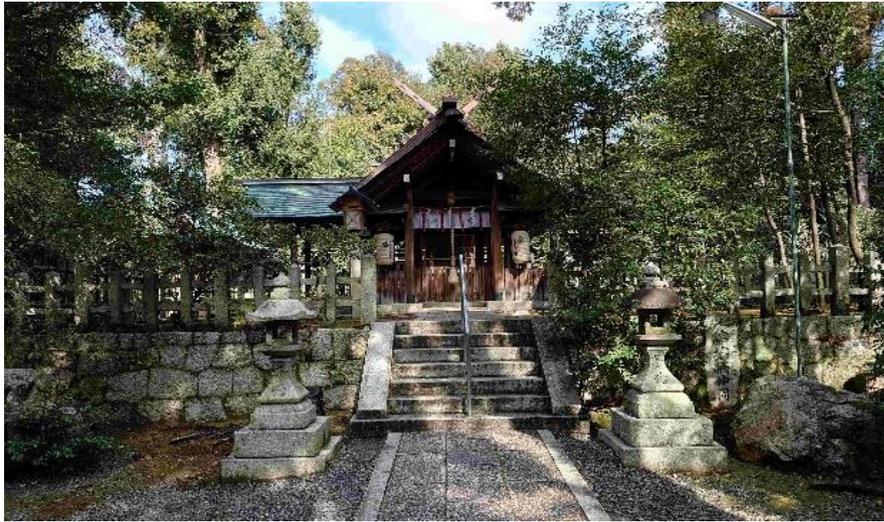
正面入り口の鳥居です



鳥居の向こうに見えるのは真ん中に木の生えた島があった池の場所です。現在は住宅と駐車場になっています。



入ってすぐの処にある神社の説明板です



ずーっと奥にある正殿です



鳥居はこの奥にあります
このあたり木々がうっそうと茂り昼なお暗く鳥居本体もよく見えず神秘的に拍車がかかっていました



小池（泉）と小川です
このあたりも暗く靈
験あらたかなるもの
を感じる場所です
状況が一変したのは
2018年の台風で多く
の巨木が倒され太陽
がさんさんとふる場
所になりました



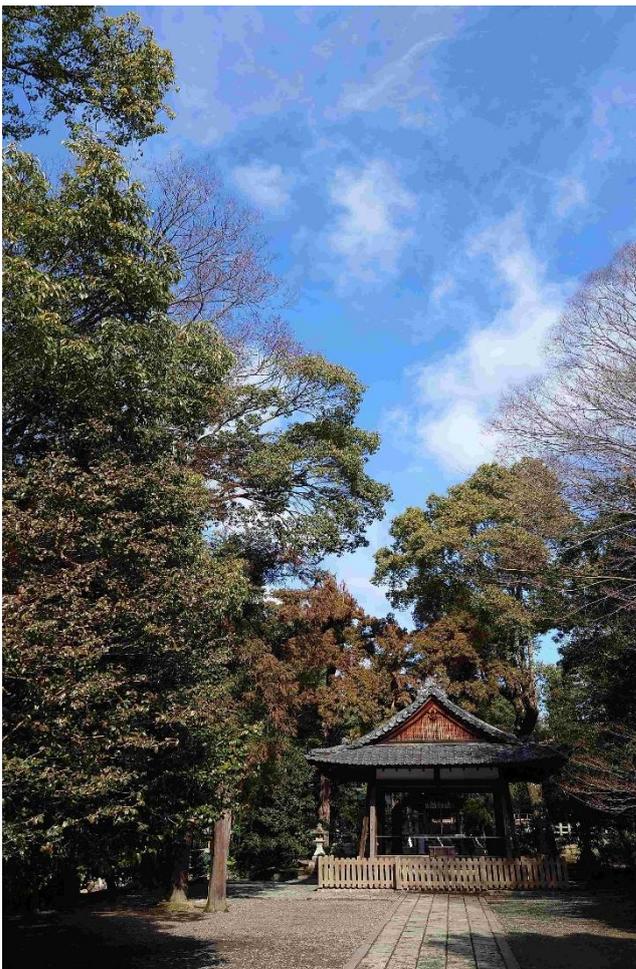
これが噂の三柱鳥居
です
台風前はよく見えま
せんでした



近寄って見ます・・・



上の方から見ると三
角形で 3 本柱がよく
分かります



写真のような巨木が生い茂り昼なお
暗き神社でしたがああ無情です！